



生涯学習に関する実践事例や生涯学習機関・団体等が行う事業の紹介をしています

今回は美の国アクティブカレッジ事業と新秋田県立美術館、そして各団体の生涯学習活動を紹介します！

「美の国アクティブカレッジ」スタート！

「美の国アクティブカレッジ」は、地域の誇りとなる人、地域にある有形無形の文化財、地域を元気にしている人などから秋田のよさを知り、行動の原動力にできるような学びの機会を提供しようと企画しました。今年度の秋田県生涯学習センターの主催講座は「あきたふるさと学講座」「ふるさと体験ジュニア講座」「美の国アクティブカレッジ・シニアコーディネーター企画講座」の3種類を用意しています。

「あきたふるさと学講座」では、秋田を愛し、秋田で活躍されている方々を講師に迎えた「あいLOVE あきた」を目玉としています。第1回の講師は「有明コロシアムへの挑戦 ～秋田のプースターに伝えたい～」をテーマに秋田ノーザンハピネッツの中村和雄ヘッドコーチが、試合時同様の熱いお話をされました。また、第2回は「俊才ピアニスト」として国内外で活躍中の佐藤卓史氏が、ピアノ演奏も交えながらヨーロッパでの音楽修行を振り返られました。



また、昨年度「地域マイスター養成講座」を修了された人たちが講座の企画・運営に携わる「ふるさと体験ジュニア講座」を子どもたちを対象に、美郷町・能代市でそれぞれ開催しています。美郷町では「こなだり探検隊」と題して、7月30日(月)はわら細工体験に挑戦し、8月9日(木)には清水川での水中生物の観察やクレソンの植え付け、藤清水を会場に清水を利用した生活体験を行いました。能代市では「能代で遊んで食べるぞ!!」をテーマに、7月31日(火)、常盤川を会場に水車作りや魚のつかみどり体験をして、地域の魅力を再発見しました。なお能代市では11月10日(土)も体験活動を行う予定です。



美の国アクティブカレッジ・シニアコーディネーター企画講座では、北条常久シニアコーディネーターが企画し、多種多様な切り口でお届けする「東日本大震災に学ぶ(5月に終了)」とシニアコーディネーター自身が講演する「絆を求めて 東北の詩人たち」があります。「美の国アクティブカレッジ」にぜひご参加ください。

「新秋田県立美術館」について

秋田県教育庁生涯学習課 学芸主事 大塚 昌和



来年秋に本オープンする新秋田県立美術館は、6月29日に竣工しました。美術品を展示・保存するための館内空気質が文化庁が重要文化財等の展示のために推奨する基準値以下に安定するまでの間、世界的な建築家安藤忠雄氏の設計による美術館建物の魅力を堪能してもらおうと、7月21日に暫定オープンし、施設を無料開放しております。

本オープン後の展示は、藤田嗣治の壁画「秋田の行事」(1937年、3.65×20.50メートル)をはじめ、平野政吉氏の収集した藤田作品を中心に構成されます。2階の「藤田嗣治大壁画ギャラリー」は、上階デッキからも鑑賞できる構造となっています。その他1階に、県民の創作活動の発表の場となる県民ギャラリーが、2階にカフェ、ショップ、ライブラリー、3階に常設、企画展示のためのギャラリー1・2が配置されます。

現在1階県民ギャラリーでは、各市町村の自然や文化等を美の観点から紹介する「市町村美の競宴」(~10月15日)を開催しています。3階ギャラリー1では安藤忠雄氏の設計コンセプト、デッサン、模型等を紹介する展覧会「安藤忠雄の美術館—秋田県立美術館完成までのプロセス—」を開催中です。今後も様々なイベントを予定しています。特に11月17日~13年1月27日開催予定の「スタジオジブリ・レイアウト展」(有料)は今年度の目玉といえます。

新しい県立美術館ではアートスクールやセカンドスクールモデルプログラム事業等の教育普及事業も行っていきます。8月19日には第1回目のアートスクール、『親子で作ろう「さんかくおむすび(び)』を開催しました。幼児、小学生低学年を対象に藤田嗣治の「秋田の行事」にも描かれている米俵(お米)と美術館のシンボルマークの三角を関連させ、紙粘土を使った三角おむすび作りをしました。それぞれが作ったおむすびを美術館のシンボルマークに見立てて型抜きしたプレートに入れると、オリジナルの「おむすびシンボルマーク」が出来上がりました。隣接する商業施設内にあるおにぎり屋さんの協力を得て、おにぎり、米俵を実際に見学してイメージを膨らませました。最後に「秋田の行事」を実際に鑑賞し、中に描かれているのは「こめだら」、米俵の中には「おこめ」が入っていることを覚えて発表してくれる子がたくさんいました。

今後は、現美術館が所蔵する藤田嗣治作品に関連させ、豪風閣をゲストに招いたデッサン会、ちんどん屋さんを招いての作品作りなど、4回のアートスクールを予定しています。作る活動をとおして、作ることそのものを楽しんだり、人と人とが出会う喜びを共有する活動を行っていきます。



地域に根ざした社会教育活動をめざして

秋田県社会教育委員連絡協議会 会長 伊藤 晴美

秋田県社会教育委員連絡協議会は、秋田県社会教育委員と市・町・村社会教育委員の281名で構成されています。

昭和46年に発足した本協議会は、昨年、結成40周年を迎えることができ、10月の結成記念式典では、前文部科学省生涯学習政策局長の坂東久美子氏をお迎えし、「地域の絆をつくる生涯学習・社会教育～学びを核とした活力ある地域へ～」と題して記念講演をしていただきました。これからも、秋田県社会教育の振興のために諸先輩が築き上げられた足跡を大切にしながら、変動する社会に全委員の知恵を結集し、行動することを確認しました。

平成24年度5月の評議委員会では、活動の重点・事業内容・新体制が採択されました。

① 社会教育委員の活動に資する研修及び情報提供の充実 ② 市町村における社会教育行政・長期計画策定の推進

③ 地区社会教育委員研修の充実

の3点のもと事業計画を立案しています。事業内容で特筆すべきことは、各社会教育委員が自己研鑽を積むための年4回の研修会です。

①《研修会》 5月29日(火)

『これからの社会教育行政 ～本県の取組を中心に～』

講師 秋田県教育庁生涯学習課社会教育班 副主幹(兼) 班長 戸部 裕隆 氏

県民一人ひとりの行動力を結集して、活力あふれる秋田をつくる原動力の「行動人」をキーワードに、社会教育委員が自らのモチベーションを高く主体的に取り組むべきというアドバイスをいただきました。

②《生涯学習・社会教育関係者研修 基礎講座(共同開催)》 5月31日(木)

社会教育委員を対象の分科会では、様々な事例が紹介されました。

- 助言者 県生涯学習課社会教育主事 村井 史人 氏
- 事例発表者 前秋田県社会教育委員連絡協議会会長 大井 光弘 氏
新秋田県社会教育委員連絡協議会会長 伊藤 晴美

③《地区社会教育委員研修会》 秋に向けて、各ブロックで開催。

県内8ブロック(県北3・県央2・県南3)で開催されています。

ブロック毎に開催することで、秋田市内で行われる会議等々に出席できない委員も、地理的に参加しやすいことで好評です。

④《生涯学習・社会教育研究大会(共同開催)》 平成25年1月予定。

社会教育委員の職務は、「社会教育に関する諸計画を立案する」「教育委員会の諮問に対して意見を述べる」「意見を述べるために必要な調査研究を行う」などです。そのために時代のニーズ・変化に対応すべく自己研鑽を重ねる努力をしていきたいと思っています。



男鹿市奨励員協議会活動について

男鹿市生涯学習奨励員協議会 会長 長尾 歌子

●子どもたちから教えられる

脇本公民館では、毎週火曜日子どもたちのヒップホップダンスサークルが開かれ、15~20名が練習に参加し、その練習の成果を、文化祭のときに他の地区からの応援隊も加わって、40名を超える子どもたちが狭い舞台にもかかわらずものすごいエネルギーで会場を盛り上げてくれます。練習日に子どもたちと会った時は、「こんにはは」とさわやかに元気な、目を見てにこやかに気持ちのよい挨拶してくれます。そんな子どもたちを見てみると、最近の子どもは挨拶もろくにできないなどという話をよく聞くことがありますが、子どものときどんな大人に接するかによって大きく変わることもあるだろうし、大人になって節目節目でそのことが大きく変わってくると思われれます。指導者とは、教えることだけでなく、他のことにも目を注ぐように努めなければならないと思いました。それはまた、子どもたちが私たち大人へ教えてくれたことでもありました。

●活動について

奨励員の活動としては、毎年市内各小学校を持ち回りでサポート活動を実施しています。これは、子どもたちと放課後に、歌や読み聞かせ、小物作りなどをして交流をする活動です。子どもたちも普通の授業とは違った取り組みに楽しく、喜んでときには真剣に物作りをしています。その他昨年は、地区公民館の文化祭の開催日に生涯学習サポートDAY事業を活用してミニ縁日を開催いたしました。



●脇本地区子どもミニ縁日開催

子どもを対象としたお祭りの縁日を体験してもらおうと、脇本地区文化祭の開催日とあわせて、奨励員による大人と子どもの「生涯学習サポートDAY事業」を活用してミニ縁日を開催いたしました。

事業の内容としては、ミニ縁日(土曜日1日)[ヨーヨー釣り・型ぬき・障子破り(チャンス宝箱)]を企画しました。

1か月前からの広報活動のおかげで、当方の予想をはるかに超える120名もの子どもたちの歓声が会場内に響きわたり、大盛況となりました。

普段は子どもたちと接する機会が少ない奨励員も、この日一日は重心に返って盛り上がりました。

ヨーヨー釣りや型ぬきがうまくできず、くやしがり「また来年もやってくれますか」とか、障子破り(チャンス宝箱)では、もう一回やらせてほしいなどとおねだりする子どももいて、例年とは一味違う、明るく楽しい文化祭に盛り上げてくれました。

この事業を終えて思ったことは、これは男鹿市だけのことでないと思いますが、今地域の文化祭は毎年サークル数が減少、それに伴い参加者も年々少なくなってきたという事です。そこで私たち奨励員も、公民館数か所体験学習コーナー(和紙の人形や松ぼっくりのブローチ・紙粘土の置物など)を設けて、参加者の増加につながるよう心がけておりますが、なかなか思うようには集まらず、大きな課題となっております。今回は、この事業を開催したことで子どもたちも大勢集まり、子どもたち自身のコミュニケーションもはかられ、学校では経験できなかったことをとても喜んでくれたと実感いたしました。

今後も、微力ながら活動を通じて地域に役立って行きたいと思っております。

あきたの生涯学習—まなびピア21— 第42号(平成24年9月19日)

編集・発行／秋田県生涯学習センター

(所在地) 〒010-0955 秋田市山王中島町1-1 (TEL) 018-865-1171 (FAX) 018-824-1799

まなびサポート秋田

<http://lifelong.akita-kenmin.jp/>

秋田県生涯学習センターHP

<http://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>

秋田県生涯学習センター

E-mail sgcen002@mail2.pref.akita.jp

